

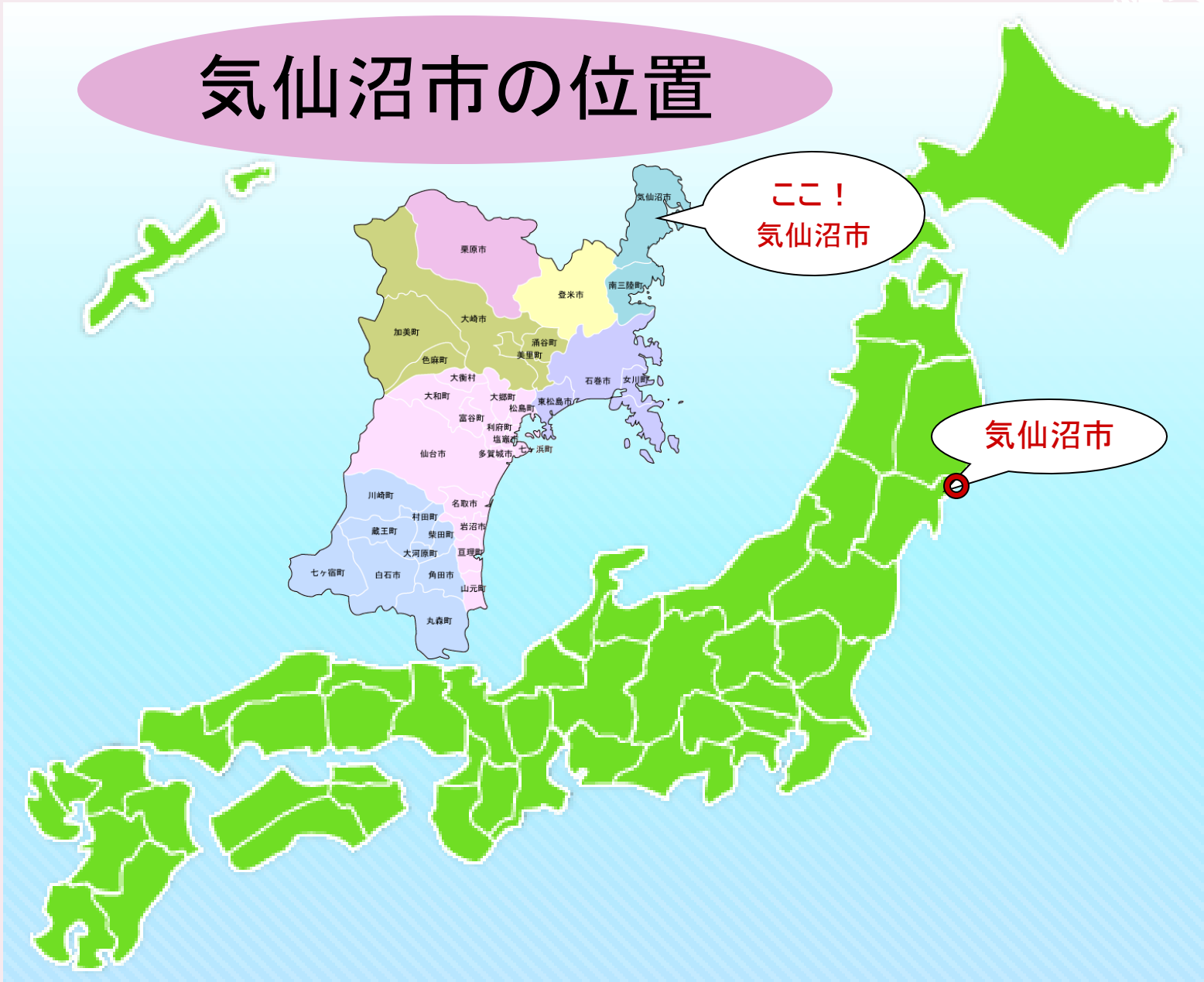
災害看護の伝承

被災地看護職の復興への取り組み
～ あの日から ～



気仙沼市保健福祉部健康増進課
保健師 三浦 京子

気仙沼市の位置



気仙沼市の被害状況

◆人的被害(平成24年12月27日時点)

死 亡 者:1,040人 行方不明 :243人

震災関連死認定件数:104人(平成24年12月4日時点)

<参考>平成22年死亡数は 958人(死亡率12.9)

<参考>平成23年死亡数は 2213人(死亡率31.4)

平成23年死亡率
全国 9.9
宮城県14.7

◆住宅被害(平成23年4月27日時点)

被災世帯数:約9,500世帯(市全世帯の35.7%)

浸水面積 :8.65km²(市全体の5.6%)

<参考>都市計画区域の浸水割合は 20.5%



震災直後の気仙沼市内の様子



震災直後の気仙沼市内の様子



震災直後の気仙沼市内の様子
気仙沼市役所前



震災直後の気仙沼市内の様子
気仙沼市役所前

<災害発生直後> ～命を守るために～

3/11

- ◆災害対策本部を通じて一部の避難所へ配置された看護職
- ◆市役所や健康管理センターへ避難してきた方への対応をした看護職

100歳の高齢者
被災した産婦人科から避難してきた新生児と産婦
津波で、ずぶ濡れの被災者
(市役所の向かい側のグループホームや近隣から避難してきた)
・・・など



災害対策本部にも整理された情報がない(通信手段のシャットアウト)
交通手段もない(市役所付近の駐車場を利用していた庁用車・自家用車も流失)
様々な場所から発信された情報で判断し、個別に対応

<2日目～5日目> 3/12～3/16 ～命と安全の確保～

ライフラインは復活せず 電気× 水道× 通信× ガスはプロパンにて○

3/12に災害対策本部より避難所(面瀬中)へ 避難者500名 市職員4名(うち保健師1名)

①避難所運営...安全を確保する視点

情報の収集 (避難者の氏名, 住所, 行政区の整理)

情報の提供 (市からの情報を周知・伝言板の利用)

ルールづくり (ペット, お酒, トイレの利用方法, ゴミ出し等)

食事と暖房の確保 (食事は地域のボランティアの炊き出し・灯油は1日100ℓ要確保)

②健康問題を抱えている方への対応...命を守る視点

精神疾患や慢性疾患をもつ方が, 服薬できずに不安を抱えている。乳幼児については, 発熱やひきつけ, 嘔吐の症状あり。身体の不自由な方への対応

→どこの病院で受診が可能かを含め受診できるように支援が必要

③在宅生活者への支援...生活を守る視点

在宅での生活に支援を必要とする方への支援が必要(食糧・ミルク・オムツ等)

<6日目～20日目> 3/17～3/31 ～生活の安定の確保(避難所中心)～

◆ライフライン改善状況

面瀬地区の場合は、電気3/22～.水道3/29～.通信3/20～(固定・携帯ともに)

①避難者の健康状態の把握と要支援者への支援

- ・奈良県から派遣された保健師と連携し、健康調査及び健康相談の実施
- ・医療団の巡回診療(3/17～)と市内医療機関の眼科・小児科の巡回診療(3/22～)開始



②避難所の衛生管理の取り組み

- ・感染症・食中毒の予防のため、土足禁止(3/17～)
- ・発熱等の症状のある方は隔離
- ・食事前の手指消毒の徹底
- ・次亜鉛素酸を使ってのトイレ清掃の徹底やトイレ使用の仕方等

③生活環境の改善(避難所において生活しやすくするために)

- ・避難所を4つに区分け(1丁目～4丁目)
- ・自衛隊による炊き出し(昼・夜)開始(3/22～)
- ・仮設シャワーの設置(民間からの協力)等



④避難者の自立に向けての支援

- ・地域のキーパーソンが運営にかかわる(行政と住民とのよい繋ぎとなった)
- ・避難者が運営にかかる役割をもつ
(食事配布・掃除・要支援者への援助・トイレの水の確保など)

<21日目～2か月> 4/1～5月中旬 ～生活の安定(避難所から仮設入居)①～

◆4月 避難者だけではなく、市全体の支援を行うため、通常業務再開にむけて準備開始

<3月末に係員が集合し話し合い>

この震災の厳しい状況下での通常業務の「乳幼児健診等」を再開することで、母親達に安心してもらいたい！

しかし、保健師は避難者中心の活動で精一杯！しかし...気にかかる

全国から
医療
保健
介護職
の
応援！

避難所には、全国からの支援者の協力をもらうことで、職員が職場に戻る時間があった。

4月...避難所に出向いての子育て相談
5月...乳幼児健康診査の再開

◆5月～

*乳幼児健診等の
通常業務の再開

5/6～

☞家が流失し、住所地にいない・連絡がとれない等あり健診日程の周知方法を検討

☞震災後の心の状況を確認するため問診票を作成

*震災にて新たに
発生した業務

☞母子手帳や妊婦健診の助成券流失のための再交付の手続きなど
↳ 健診や予防接種の記録の転記が必要

*業務は、避難所から通常業務にシフトしていくが、避難所の朝・夕のミーティングに参加

<3か月～6か月> 6月中旬～9月中旬 ～生活の安定(避難所から仮設入居)②～

◆6月～

＊仮設住宅入居者への支援の開始 ... (5月から応急仮設住宅の入居開始)

仮設入居者の健康状態の把握
県内外からの応援看護職による全戸
訪問(調査)の実施

訪問終了後にカンファ
レンスを実施し、要支援
者の引き継ぎ

支援者と連携し、
継続支援へ

＊支援者支援 (友愛訪問員(高齢者世帯対象)や生活支援相談員等)

＊避難所に従事する保健チームの支援

支援スタッフの情報交換会
の実施(1回/週)

気仙沼市の全体
の状況がわから
ない！！



その他に.....

☆外部からの支援(人的・物的)の調整

☆センターを被災した社協に貸出しているために土・日の施設管理業務の発生

被災者の健康づくりに関する支援事業(気仙沼市) H25.1.31現在

	妊婦・乳幼児	学童～青少年	成人・老人
市全体	すこやかな育ちを支える会(研修・情報交換等) 移動 あそびと子育て相談 宮城県こどものころケアチーム巡回相談(県主催)		断酒をめざす会(自助グループ)
	遺族者支援 仙台グリーンケア研究会主催・市保健師による開催		
応急仮設住宅	全世帯訪問は平成23年度に実施		
	平成24年度宮城県応急仮設住宅入居者健康調査実施⇒要支援者の選定⇒個別訪問等にて要支援者の状況把握		
			健康相談会(なんでも健康相談会 県看護協会主催)(さわやか健康相談)
			介護予防体操(お茶っこ体操)
			健康支援事業(県委託事業) ①歯科口腔保健事業 ②食生活支援事業 ③リハビリテーション支援事業
民間賃貸住宅	全世帯訪問 平成23年度より継続実施		
	平成24年度宮城県応急仮設住宅入居者健康調査実施⇒要支援者の選定⇒個別訪問等にて要支援者の状況把握		
			心カフェ(交流会)

訪問等を通して、民間賃貸住宅入居者は、応急仮設住宅入居者に比べて支援が少ない！地域からの孤立感を感じる！との声があり。

交流の場とリラックスの手法を学ぶ場を提供

心(こ) カフェ



◇応急仮設の建設戸数は、**3,504戸**

◇民間賃貸借り上げは、**1,408戸**

以外と多い

民間賃貸

「心カフェ」の「心」こころ
今回は、タッピングタッチ



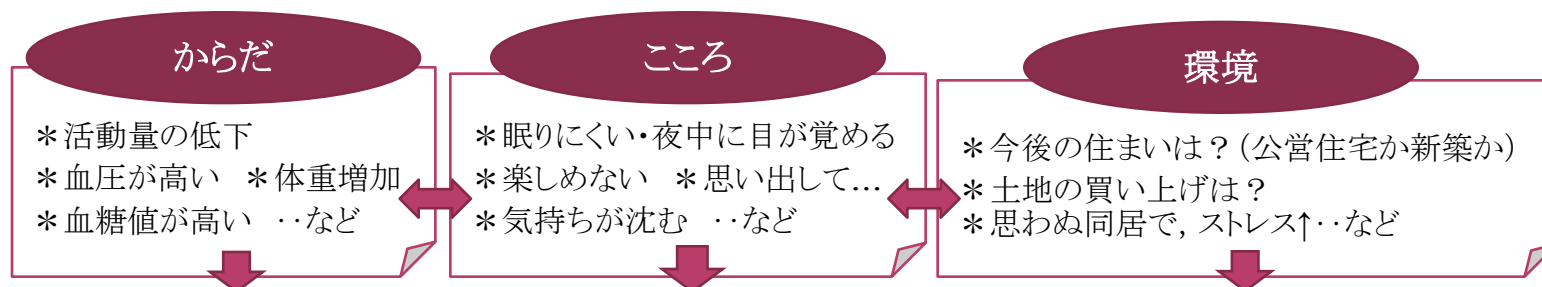
「心カフェ」の「カフェ」



支援者への支援事業(気仙沼市) H25.1.31現在

全体	心のケア関係	生活不活発病関係
支援者ミーティング 会議の実施 (10地区にて、1~2 か月に1回実施)	①心のケア研修会(対象者:民生委員児童委員) ②災害時訪問スタッフ研修会(対象者:サポートセンター等) ③食生活改善推進員研修会(対象者:食生活改善推進員) ④遺族支援に関する研修会(対象者:サポートセンター・ボランティアセンター等) ⑤自殺予防研修会(対象者:サポートセンター等) ⑥アルコール研修会(対象者:サポートセンター・ボランティアセンター・友愛訪問員・ケアマネ等)	①生活不活発病予防研修会 (対象者:サポートセンター等) ②介護予防体操普及サポーター研修会 (対象者:ボランティアセンター等)

★地域に出向き、生活を支えるために長期的なケアが必要



☆生活を活発にすることが大切・心のケアも含み前向きな気持ちになれるような支援が必要
☆心が動けばからだも動く!!

<この震災を通して感じること>

日々の実践活動の大切さ
看護職としての力量
他機関・多職種との連携力
地域とのつながり

連携
地元の支援者
県内外からの応援支援者
新たな職種

看護職として
行政職として

災害看護は、看護
の原点であり...

統括保健師
の
必要性



自分自身もつながっ
ているか？
セルフコントロール

波



元氣をもらい
ありがとう

5月に日本赤十字
看護大学のボラン
ティアの方から仮設
に住む私の所に、ブ
ロッコリーの大きな
鉢植えを届けていた
だきました。

それが大きくな
り、収穫しさらに脇
芽からまた出たつぼ
みが大きくなりつつ
あります。その時に
添えてもらった「ブ
ロッコリーの育て
方」を基に、育てら

れたことは、ほんの
少し前に進める気持
ちになることができました。

ブロッコリーが大
好きな孫娘と成長ぶ
りを手紙でやりとり
もしました。そし
て、この夏、孫娘が
来て大きくなったブ
ロッコリーを見て喜
んでくれました。

ボランティアの
方々に、このうれし
い思いを伝えたくて
ペンを取りました。
みなさん、本当にあ
りがとうございました。

(岩月 小野寺富美
子)

ご静聴ありがとうございました



健康増進課 健康増進係 平成25年1月18日
保健師6・栄養士2・歯科衛生士1・看護師1・精神保健福祉士1